

フィリピンでの活動通じた感想

兒玉峻暢(都市・環境工学科3年)

渡航地：フィリピン共和国 マニラ、パンパンガ州



私は、夏休みに足踏みミシンボランティアの活動でフィリピンに行きました。人生で初めての海外渡航なのでとても不安でしたが、私はそれをととても楽しむことができました。また、フィリピンで学んだことも多くありました。

フィリピンで見た光景には到底日本では目にできないものもあり、その土地の独特の雰囲気など、とても興味深かったです。また、それとは逆に、日本にとっても似た部分も多くありました。現地で出会った人たちとの交流や、様々な体験などもあってとても勉強になりました。

足踏みミシンボランティアで行った活動について

私が所属している足踏みミシンボランティア部は、日本各地から送られてくる使われなくなった足踏みミシンを使えるように修理し、それを東南アジアの貧しい地域の方々に提供するという活動を行っています。毎週、全国から送られてきたいろいろな種類の足踏みミシンを、数人の仲間と共に丁寧に修理しています。

私がフィリピンに渡航した理由は、自分が所属している足踏みミシンボランティア部の活動として現地の方々に修理したミシンの技術指導を行うためです。



足踏みミシンのメンテナンスについて、英語で説明

現地の方々と会話するときは英語を使います。もちろん、足踏みミシンの使い方について教える時も英語です。私は英語がとても苦手です。実際、フィリピンの方々と会話する際もしゃべりたい言葉を英語にできず大変苦労しました。身振り手振りのジェスチャーを使ったり、単語が浮かばないパーツなどを指さすことで大体の言いたいことは伝わりましたが、正確に伝わらないこともあり大変でした。英語で意思疎通を図れる、というのがどれだけ便利で素晴らしいツールなのかを痛感しました。

足踏みミシンはフィリピンの貧しい地域の家庭に送られますが、そこでミシンがどのような使われ方をしているのかの見学もしました。足踏みミシンは足で踏んで操作するので電気を使いません。ミシンを送った地域の家庭では、それを使って電気を使わずにたくさんの洋服や下着、制服などを製造し販売していました。私たちが行ったのは小さな村ですが、そこではたくさんの家庭に私たちの送った足踏みミシンが置いてありました。ひとつひとつ家庭ごとに分業してたくさんの種類の衣類を別々に作っている光景を見ることができました。製造されている衣服のひとつ、子ども用のユニフォームは一着 40 ペソ(日本円で 80 円ほど)で販売されているそうです。

今まで私は、ミシンボランティア活動でミシンの修理をしているだけで、どんな地域にミシンが贈られているかについては詳しく把握していませんでした。今回、現地で自分たちが修理したミシンが使われている光景を見るのはとても感慨深く、「私は少しでもこの人たちの役に立てたんだなあ」と実感できました。聞いた話によると、私たちが贈ったミシンによる収入によって、学校に通えなかった多くの子どもたちが学校に通えるようになったそうです。1 台の足踏みミシンで 4 人もの子どもが学校に通えるようになった家庭もあるらしく、足踏みミシンの社会貢献驚くとともにとてもうれしく思いました。

足踏みミシンボランティア部で修理された多くのミシンは、フィリピンの村で多くの人々の生活を支えていました。このことを現地で自分の目で確かめて、私たちが今まで行ってきた活動をもっと誇りに思えるような大きな機会でした。

可能であれば来年も現地に行ってみたいと思います。もっと英語の力をつけて、コミュニケーションを取ることができればもっと大きな発見や体験ができると思います。そして新たな経験を糧にして、将来に生かしたいです。

